

研究集会開催報告書

自然科学研究機構
国立天文台長 殿

平成 22 年 9 月 6 日

(代表者)

所属・職名 東京大学大学院 理学系研究科 天文学専攻
博士後期課程3年

氏 名 石川 遼子



研究集会名	第40回天文天体物理若手夏の学校
開催期間	平成 22 年 8 月 2 日 ～ 平成 22 年 8 月 5 日
開催場所	〒441-8061 愛知県豊橋市藤沢町141 ホテル日航豊橋
参加人数	総参加者 389名(一般参加者 366名、招待講師 23名)
研究集会の概要	天文天体物理若手夏の学校は天文学・天体物理学を研究する若手研究者のために若手研究者自身の手によって運営・開催されている研究会である。今年度我々が開催した第40回天文天体物理若手夏の学校では、日本国内における若手研究者に研究発表と交流の場を提供することで、研究や研究発表能力の向上、若手研究者同士の交流促進、研究会運営の経験を積むことの3つを目的として、具体的に以下の5項目の達成を目指した。 (1)天文学、天体物理学の幅広い分野からの発表がある研究会にする。(2)若手研究者に発表訓練の機会を与える。(3)第一線で活躍されている研究者をお招きする。(4)若手研究者同士の交流の場を提供する。(5)若手研究者が研究会を運営する能力を培う。 これらの項目を念頭に、愛知県豊橋市の「ホテル日航豊橋」において3泊4日の日程で次の分科会、企画を開催した。 (Ⅰ)分科会 「相対論」、「宇宙論」、「観測機器」、「銀河・銀河団」、「太陽・恒星」、「コンパクトオブジェクト」、「宇宙線」、「惑星系」、「星間現象」の9つの分科会により構成された。今年度からの大きな変更点として「相対論・宇宙論」分科会を「相対論」「宇宙論」各分科会に分割した。また、各分科会内で参加者による口頭講演及びポスター発表と招待講師による講演を行った。 (Ⅱ)全体企画 天文学と社会「天文学とSF」と公募企画「ALMA時代に向けて～若手達の提案」の2つの企画により構成された。「天文学とSF」では漫画家の招待講師をお招きして天文学と表現の関係を講演していただいた。「ALMA時代に向けて～若手達の提案」では2012年運用開始予定の大型電波干渉計ALMAについて若手の間でなにをすべきかを検討する議論の場を提供することを目的とし、参加者によるパネルディスカッションを始め、招待講師の方による性能やプロポーザルの書き方に関する講演を行っていただいた。 (Ⅲ)第40回記念企画 開催第40回目を記念し、過去の夏の学校に関するポスター及び集録の展示、及びパンフレットに過去の参加者との座談会を掲載した。 (Ⅳ)懇親会 他の参加者や招待講師の方々と交流する機会を用意することで研究内容や研究者としての生き方について議論し、研究意欲を高めることを目指した。 なお今年度の夏の学校は国立天文台(三鷹)、東京大学天文学教育センター、宇宙科学研究所、埼玉大学の学生を中心とした事務局が運営を行った。

(裏面あり)

研究集会の成果	今年度の夏の学校は招待講師23名を含む合計389名の参加者を迎えて開催した。3泊4日の合宿形式を通じて、参加者は開催期間中集中して講演、議論や交流を行うことができた。以下では開催時に回収したアンケート(総回答数214)の総括を行う。 ・全体に関して 主催者の対応、運営、開催時期、開催形式に関しては約9割の満足と賛成が得られた。参加目的としては発表、交流、情報収集が多かった。夏の学校で得られたこととしては自分の研究の進展や若手研究者との交流という回答が多く得られ、夏の学校主催者及び参加者が目標を共有し、達成していることが確認できた。 ・分科会、全体企画、記念企画に関して 招待講演をはじめとして内容はいずれも好評であった。口頭発表は150件、ポスター発表は114件の発表があり、修士1年次の学生を主として、博士課程の学生まで多くの若手研究者が発表と議論の場を持つことができた。相対論・宇宙論分科会を分割した点に関しては各分科会内で扱う内容が明確になったという好意的な意見が多かった。一方で分科会によっては未だ棲み分けが不明瞭であるという意見もあり、分科会の編成に関して今後も議論の余地がある。 全体企画については2件で適当であったという回答が7割であったが、講演時間が長いという回答が多く見られたので次年度以降の課題とする。 開催40回目の記念企画については夏の学校の歴史や意義を確認でき、記念企画として有意義なものとなった。 ・会場に関して 立地、アクセス、宿泊設備、食事は7割、セッション会場は9割以上の満足を得る事ができた。一方、約4割が宿泊費(食事込み8900円/日)に対し高額であると回答していた。しかし、300人を超える参加者を十分まかなえる会場の候補は数少なく、その中で今年度の会場は例年より費用を安く抑えられているため、最善の策であったと考えている。より多くの学生が少ない負担で参加できるよう、会場選定には今後も十分な検討が必要である。 ・事務局運営に関して 事務局員対象のアンケートでは回答者の9割が運営に携わったことが良い経験になったと肯定的な意見を持っており、研究会開催の能力を身につけるという目標も十分に達成できたものと考えられる。 全体として、第40回天文天体物理若手夏の学校の「若手研究者の研究発表能力を高める、若手研究者同士の交流を促進する、研究会の運営を通じて研究会の運営能力を高める」という開催目的は達成されたと考えられる。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	夏の学校では例年遠方からの参加者に対し旅費補助を行っております。参加者へのアンケートでは、所属機関から一部でも費用を出してもらえる学生は全体の半数、全額補助は更にその半分という結果があり、この旅費補助の必要性を強く示しています。今年度は主に個人からの寄付収入を増やすことができたため、旅費補助希望者99名に対して自己負担額を3000円にまで抑えて旅費を補助することができました。しかし個人や企業からの寄付収入は毎年変動が大きいので、貴研究機関から頂く補助金は安定した運営に欠かせないものになっています。どうかこのような夏の学校の状況を御理解頂き、来年度以降も継続的な御支援を頂ければ幸いです。 また、夏の学校開催後の集録作成に関しても、貴研究機関からの援助によって例年通り質の高い集録を作成し配布することが可能となりました。貴研究機関の援助に対して深く感謝申し上げます。